



未来を拓く、なは☆ひとづくり、
まちづくり、ゆめづくり

広報なは
那覇
市民の友

6

2025 Jun.
No.893



那覇市長 知念 覚

次世代の語り部

今年は、戦後80年の節目を迎えます。改めて先の大戦を振り返り、深く考え、平和への想いを新たにする重要な機会です。私たちには、戦争の悲劇を忘ることなく、平和の尊さを次の世代に継承していく責務があります。

戦争体験者の語り部が少なくなるなか、戦争を体験していない若い世代によって、先人の悲惨な体験を語り継ぐ活動が行われています。「次世代の語り部」は、二度と戦

争の悲劇を繰り返させてはならないという先人の想いを継承し、未来へつなげていく重要な役割を担っています。

来る6月23日の「慰霊の日」は、先の大戦で犠牲となつた戦没者の方々を想うとともに、人類普遍の願いである恒久の平和を希求する大切な日です。戦後80年の「慰霊の日」を迎えるにあたり、平和の尊さを改めて心に刻み、平和な未来の実現に向けて、市民の皆様と共に歩んでまいります。



市公式
インスタグラム
フォローしてね♪
#なはとびで検索



市公式
LINE
友達登録は
こちらから→



Catalog
Pocket
You can read this city
newsletter in 10 languages.



FOREIGN
RESIDENTS
PORTAL



特集

平和の

継承

戦争の記憶を紡ぎ、平和の灯を次世代へ

【平和の継承】それは、戦争の悲惨な記憶と教訓を次の世代に伝え、平和を繋いでいくための役目を受け継ぐことです。ここ沖縄においても、国内で唯一住民を巻き込んだ地上戦が行われ、多くの尊い命が奪われました。私たちは、この事実を戦争体験者から聞くことで平和の尊さを胸に刻んできました。

しかし、戦後80年を迎えるなかで、高齢化により戦争体験者から話を聞く機会も減りつつあり、継承が課題となっています。

市では、戦争体験者の証言を映像に残し発信することで次世代への継承に取り組んでいます。他方、戦争体験者の遺志を継承し、次世代に平和の大切さを伝える人々も増えてきています。

今号では、解説員として活動する戦争体験者と平和活動に取り組む高校生に話を聞き、平和への想い、戦争を知らない世代へ伝えたいことなどを伺いました。彼らの想いを聴き、慰霊の日に改めて平和について考えるきっかけになれば幸いです。

取材/秘書広報課☎862-9942



沖縄戦体験者

岸本 幸秀さん(87歳)

6歳の頃に那覇市若狭町の自宅で10.10空襲に遭う。その翌年、最後の疎開船で大分県へ疎開し、終戦を迎える。現在は、養秀同窓会の一中戦没学徒資料室で解説員として活動。



沖縄尚学高等学校 地域研究部

太田 尋也さん(16歳)

幼いころ資料館や防空壕を見学し戦争・平和に心づく。同部で活動していた兄、姉の姿を見て入部を決意し、語り部としての活動を始める。

語り部になったきっかけ

もともと養秀同窓会の東京支部で活動をしていましたが、沖縄に帰った際に、友人の誘いで同窓会の平和部会に加入したことです。私自身も10.10空襲や疎開を経験していることや、ひめゆり学徒隊であった叔母が語り部活動をしている姿を見て、私も語り部を担おうと思いました。叔母の影響が一番大きかったです。

今回、戦争体験を映像に残そうと思ったのも、幼稚園生の頃に空襲に遭ってからずっと当時の状況が頭の中に残っていて、戦争の恐ろしさを後世に伝えないといけないという思いがあったからです。



▲幼少期の岸本さんと姉と祖父

次の世代へ伝えたいこと

平和とはひとえに戦争のないことです。戦争は人の心身、地球上の構造物すべてを壊します。恐怖を植え付けます。世界で起こっている戦争や紛争をテレビで見ると、80年前のことを思い出します。空襲で焼失した那覇の街の姿、焼け焦げた臭いは今でも脳裏に焼き付いています。戦争で得るものは何も無く、平和に勝るものはありません。

戦争が起こる原因は、主に領土、政治、資源、民族、宗教などと言われ、ちょっとしたコミュニケーションのもつれから大問題に発展していきます。お互いの交流を深めることで戦争とは異なる解決もあります。次の世代の人たちには、隣国との交流を深化できるような国際色豊かな人になって欲しいと思います。

また、沖縄戦の資料館にも足を運び、先人たちが遺した大切な遺品、写真などの展示物を見て、当時の状況を回想しながら戦争の怖さを深く知つてほしいです。そして、若い人には、語り部に参加して戦争の悲惨さ、平和の尊さを発信し続けてほしいと願っています。



▲沖縄戦体験者証言記録映像

岸本さんや他の戦争体験者の「命どう宝」の思いと平和の尊さ、平和を希求する思いを次の世代へ伝えるメッセージが収録されていますので、ぜひご覧ください。



語り部を担うにあたって、意識していること

私たちは戦争を直接経験していない世代です。原稿をただ淡々と読み上げたり、事実だけを伝えたりすることは簡単ですが、それだけでは実際に戦争を体験した方々の言葉のような重みがなく、聞き手の心には届きにくいと感じています。また、語る言葉が本当に適切なのか、自信が持てないこともあります。だからこそ、歴史的な事実や背景をきちんと調べ、証言者の方々の言葉から沖縄戦について学び、自分自身の考えを持った上で語ることが大切だと思っています。今後は、そうした姿勢をしっかりと実践していきたいです。

現在は主に、部活動の後輩や交流のある県外の高校生に向けてフィールドワークを行っていますが、今後は身近な友達や県内の他の高校生や中学生など、語り部の活動をより多くの人々に届け、平和の大切さを共有していかなければと思っています。

戦争を知らない世代へ伝えたいこと

日本では、戦争に直接関わることが少ないせいか、戦争について考える機会があまり多くないと感じます。しかし、関わりが少ないとあって、戦争について「考えなくてもいい」わけではないはずです。ほんの少しでもいいので、戦争とは何か、平和とは何かを一緒に考えてほしいです。

最近では、ウクライナでの戦争や、ガザ地区での紛争など、世界のさまざまな場所で戦争が起きていて、それらがニュースで頻繁に報道されています。数年前に比べて、戦争について知る機会は増えてきていると感じます。戦争のニュースをきっかけに「もし自分が戦争に巻き込まれたら」と自分ごととして考えてほしいです。また、私たちの身近で大切な家族や友人の存在や安全な暮らしについて、もっと身近なところから平和についても考えてもらえたなら嬉しいです。そして少しずつでも、自分の意見を持ってくれるようになることを願っています。



▲フィールドワークをする地域研究部の部員たち



未来へ伝えるために、戦争を知る。



1 養秀会館・一中健児之塔

○ 養秀会館



男子学徒の資料室である「一中戦没学徒資料室」があり、学徒の遺影や遺族などから寄贈された遺品資料を展示しています。戦争の悲惨さ、平和の尊さを継承するため、解説員による説明も行っています。

所在 首里金城町1-7



○ 一中健児之塔



沖縄戦で戦没した藤野憲夫校長以下沖縄県立第一中学校の職員、生徒を合祀しています。この地は、養秀寮の跡地であり、最後の卒業式が行われ鉄血勤皇隊が結成された地であり、最初の犠牲者が出た地になっています。所在 同左

資料室には、当時の学徒の遺書や遺髪などもあります。

▼養秀同窓会HP



3 ハーフムーンヒル・シュガーローフ

○ ハーフムーンヒル



西側のシュガーローフとともに沖縄戦最大の激戦地。区画整理で当時の面影はありませんが、弾痕のある壁のほか小銃や銃剣、水筒など日米両軍の遺物が展示された碑が建っています。

○ シュガーローフ



沖縄戦時、首里攻防の最後の砦として日米間で激しい戦闘が行われた地で、ここでの戦闘は、圧倒的な火力・戦力の米軍に対し日本軍が互角に戦ったと言われています。特に頂上付近の戦闘では、日米両軍の支配が1日に4回も入れ替わるほどで、至近距離での銃撃戦、手りゅう弾の投げ合い、肉体的、精神的緊張の極限状況の戦いは日米軍双方に多大な死傷者を出しました。



▲当時のハーフムーンヒル

▲シュガーローフを陥とした海兵隊

▲当時のシュガーローフ 沖縄県公文書館所蔵

所在 ハーフムーンヒル：真嘉比1-13-15 シュガーローフ：おもろまち1-6



※参考文献 沖縄時事出版「沖縄の戦争遺跡」、沖縄県高教組教育資料センター「沖縄の戦跡ブック ガマ」、沖縄県生活福祉部援護課「沖縄の慰靈塔・碑」

▶慰霊の碑
(沖縄県HP)

今回紹介しました資料館や戦争遺跡のほか、市内には複数の慰霊の碑や戦争遺跡が確認されています。平和学習の教材として活用してはいかがでしょうか。※私有地であることや落盤の危険性などで、公開されていない場所も多くあります。

戦争遺跡▶



沖縄戦の悲劇や平和の大切さを未来へ語り継ぐには、まず私たち自身が沖縄戦について理解する必要があります。それらを深く知ることで次世代に正しく伝えることができます。

そのために、市内にある戦争の資料館や戦争跡地を訪れてみてください。今回は、市内の施設などをいくつかご紹介します。実際に現地を見て、証言を聴き、戦時中の状況をイメージしてあなた自身で感じたことを伝え続け、未来へと平和を繋いでいきましょう。

2 シキナグウヌガマ・シッポウジヌガマ(県庁壕)

○ シキナグウヌガマ



識名宮の後方にある壕でお宮のガマともいわれています。10.10空襲以降、避難民や兵士が使用していましたが、東風平に駐屯していた守備軍重砲隊と入れ替わり、避難民は東風平小城の壕に移動したといわれています。所在 繁多川4-1-43

○ シッポウジヌガマ



識名園園内にある自然洞穴を広げた壕で、県知事が戦時行政を行ったことから、県庁壕とも呼ばれています。ここで最後の市町村長合同会議が開催され、食料増産や南部町村での避難民受け入れなどが話し合われました。所在 字真地123



各壕の入口は施錠されています。シキナグウヌガマは、毎月1日と15日に開放しています。シッポウジヌガマは、繁多川公民館または市文化財課で鍵の貸し出しをしています。繁多川地域のガマについて詳しく知りたい方は、繁多川公民館にご相談ください。

問 繁多川公民館 ☎917-3448

4 対馬丸記念館・小桜の塔

○ 対馬丸記念館



対馬丸事件を後世に正しく伝え継ぐことを目的に建設。

館内では事件の全容を学び、犠牲者の氏名、当時の学校教室や船内の復元、犠牲者の遺影・遺品を見ることが出来ます。語り部による講話も聞くことができます。

○ 小桜の塔



記念館に隣接する旭ヶ丘公園には、対馬丸事件の犠牲者を祀った「小桜の塔」や、対馬丸以外の船舶での犠牲者を偲んだ「海鳴りの像」、戦禍の中2か月に亘り新聞を発行し続けた新聞人を祀った「戦没新聞人の碑」が建立されています。

○ 戰没新聞人の碑



○ 海鳴りの像